

羅 針 盤			方 策	第1回点検・評価			第2回点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動(授業等)を行っていますか。	① 完全な単位制の履修形態に満足している生徒・保護者が90%以上である。	受講登録後も個々の生徒の適性や進路目標に合わせた個別指導を適宜行う。	A	A	生徒、保護者ともに98%が肯定の回答をしている。個別に受講登録に不満を覚える理由を解明し、継続的に指導を行う。	A	A	肯定的な回答(生徒99%,保護者100%)を得た。今後も各生徒の進路目標をより具体化させ、丁寧な個別履修・修得指導を行う。
		② 学年、学級がない中で、生徒の出席率を80%以上にする。	様々な要因に影響されず、自分の学校生活の維持・向上ができるよう指導する。	A	A	4月から8月までの出席率は、Ⅰ部88%、Ⅱ部84%、Ⅲ部90%である。日頃から生徒の出席状況を把握し、特に不登校傾向生徒の早期発見や早期対応を行うとともに、出席意欲をかき立てる魅力ある授業やゼミ活動を展開する。	A	A	4月から12月までの出席率はⅠ部86%、Ⅱ部82%、Ⅲ部89%であり、全体で昨年より約7%増加している。コロナ禍で出席停止の影響も考えられるが、個々の出席状況の確認およびその対応を徹底した結果である。今後も予防的指導を徹底していく。
		③ ゼミ(総合的な探究)の活動に満足している生徒が80%以上である。	主体的かつ探究的に活動することで、自己肯定感が高まるよう支援する。	A	A	生徒の91%、保護者の96%が肯定の回答をしている。フレックス発表会に向け、計画・実践・評価及び振り返りを通じて、生徒が主体的・協働的にゼミ活動を行えるように支援する。	A	A	生徒・保護者ともに96%の肯定的な回答を得た。ゼミのテーマに即した具体的活動計画を主体的に作成し、それをもとに活動・発表することにより自己肯定感が高まるよう支援する。
		④ 学校設定科目の内容に満足している生徒・保護者が80%以上である。	生徒の現状に応じて、必要な学力が身に付くように、指導内容や授業展開を工夫する。	A	A	生徒の93%、保護者の95%が肯定の回答をしている。各学校設定科目の設定意義を適宜確認・修正し、生徒の現状に応じた授業展開をすることで、さらに授業内容を充実させる。	A	A	生徒・保護者とも肯定的な回答が多い。今後も生徒の実態に応じて、各学校設定科目の意義を十分理解させ、基礎・基本的な知識・技能の習得や発展的学習内容の一層の充実を図る。
		⑤ 自分の学校が好きだと感じている生徒が80%以上である。	本校の特性を生かした教育活動と個に応じた支援・指導を展開する。	A	A	生徒の87%が学校が好きだ、保護者の98%が入学させて良かったと回答している。少人数授業等、個に応じたきめ細やかな指導を通じて、さらに自己肯定感や自己有用感の高揚を図る。	A	A	肯定的な回答(生徒91%,保護者100%)が多い。今後も「フレックススクール基本構想」を再確認し、現在の生徒状況や社会状況に合わせて柔軟性を持って教育活動内容を全職員で実践する。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑥ 少人数制の利点を生かした授業内容に満足している生徒・保護者が90%以上である。	少人数制授業のメリット・デメリットを再確認したうえで、授業展開にバリエーションを持たせる。	A	A	生徒の98%、保護者の99%が肯定の回答をしている。授業アンケートで生徒から指摘された内容については、該当科目だけでなく、すべての科目にも当てはめて検証し、教科の枠を超えて職員の情報共有を図りながら授業改善に生かす。	A	A	肯定的(生徒96%,保護者98%)な意見が多い。今後も少人数制授業におけるメリットである個々の生徒の学習態度や心理状況の変化を常に確認しながら、生徒の実態に応じた授業内容の改善やきめ細やかな授業実践を展開していく。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑦ 学力が向上したと感じている生徒が80%以上である。	思考力・判断力・表現力を育む指導、その場に応じた柔軟な授業展開、適切な評価等の工夫と実践を行う。	B	A	生徒の88%、保護者の84%が肯定の回答をしている。感染症予防による分散登校の影響等、生徒の学力に与える影響を最小限に押さえられるようにICTを活用した授業の質の向上を図る。	A	A	全体研修と個人による自己研鑽を継続する。状況に応じた授業展開や適切な評価をはじめ、思考力・判断力・表現力を問う調査問題作成等の工夫をさらに進める。(生徒91%,保護者86%)
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧ SNSに関わるトラブルに巻き込まれることなく、健全な学校生活を送っている生徒が100%である。	SNSに頼らない人間関係づくりによるトラブルの予防や日々の生徒の観察をより徹底し、適宜指導する。	B	B	生徒の94%が肯定の回答をしている。SNSに関する情報提供を適宜行い、生徒自身が自ら考え適切に利用するとともに、教職員が問題を抱える生徒を早期に発見、対応できるようにする。	B	B	今年度SNSに関する大きな問題はなく、前年度と比較しても肯定的な回答を得ている。今後もSNSの様々なトラブル事例を生徒へ情報提供するとともに早期発見、早期対応を徹底する。
		⑨ 「学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っている」と認識している生徒が80%以上である。	日々の観察と定期的アンケートにより状況を把握し速やかに対応するとともに、集会等によりいじめ防止の啓発を行う。	A	A	生徒の86%、保護者の92%が肯定の回答をしている。教職員は生徒のいじめのサインを見逃さないように、常にアンテナを高く、生徒観察と情報収集を行うとともに、随時いじめ防止への啓発活動を行う。	A	A	日々の指導に加えて、いじめに関する講演会や通信発行により、日常的にいじめ防止を呼びかける。いじめ発覚時には、正確に状況を把握し、適宜、対策委員会を設置し適切な指導・支援を行う。同時に生徒が教職員に相談しやすい環境づくりを行う。
		⑩ 挨拶の励行や学校生活の中でのマナーや礼儀をできている生徒が80%以上である。	生徒間・生徒と教員間のより温かい人間関係を基に、TPOをわきまえた節度ある行動を取れるように指導する。	B	A	生徒の95%、保護者の94%が肯定の回答をしている。社会生活を送る上での挨拶や礼儀・マナーの意義や必要性を説明し、良好な人間関係を図りながら、学校全体で継続的に取り組む。	B	A	「挨拶は自分から」を基本に、生徒間・生徒教職員間の良好な人間関係を構築し、生徒の自己肯定感を高める支援を行う。同時に、地域の方からの情報も適切にマナー向上に反映させる。
		⑪ 交通マナー・交通ルールを遵守している生徒が100%である。	自分の身は自分で守るという意識を高めつつ、交通マナー・交通ルールを守る必要性を繰り返し指導する。	B	B	生徒の95%、保護者の96%が肯定の回答をしている。定期的な『交通委員会便り』の発行による呼び掛けに加え、状況によっては加害者にもなり得ることを注意喚起・啓発に取り組む。	B	B	『交通委員会便り』を発行し、交通ルール・マナーの向上を繰り返し指導する。また、交通事故は他人事ではないという意識を持たせ、安全確保のため定期的に自転車点検・整備を行う。
		⑫ 教育相談が充実していると感じている生徒が80%以上である。	管理職、教育相談係、スクールカウンセラー等と連携し、個々の生徒への支援を組織的に行う。	A	A	生徒の94%、保護者の91%が肯定の回答をしている。保護者も含めスクールカウンセラーに相談しやすい環境作りを行う。職員研修等を通じて、教職員の教育相談技術の向上を適宜図る。	A	A	スクールカウンセラーによる生徒を対象とした講演会や個別指導に加え、支援会議を通じて、教職員とカウンセラーの連携を図るとともに、教職員自身の教育相談技能をさらに高める。
		⑬ 学校行事チャレンジウォークに生徒の70%以上が参加し、参加者の90%以上が完歩している。	行事の意義理解と健康管理という生徒への事前指導を充実させるとともに、当日は生徒の的確な観察と支援を行う。			10月15日に実施予定であったが、昨年度と同様、感染症予防対策のため、安全確保の観点から中止とした。今後は、体育的な行事がほとんどできないため、代替案を模索している。			今年度は、昨年度同様、生徒の感染症予防対策の観点から中止とした。生徒間の交流増加や達成感を目的とした伝統ある行事であるため、来年度は生徒の安全を十分考慮して実施したい。
		⑭ 学校行事フレックス発表会に満足している生徒が80%以上である。	計画力、情報発信力等をさらに高められるように、探究的活動の積み重ねを行う。			12月10・11日に実施予定のため、今回は評価は行わない。昨年度は感染症予防対策のため、一般公開はせず、ゼミ活動の発表を校内生徒に限定した。本年度も検討中である。	A	A	生徒のみの公開であったが、肯定的な回答をした生徒は昨年度を上回る92%であった。感染症予防対策のため、時間の短縮をした中で動画を用いた公開など、趣向を凝らした活動であった。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	6 計画的な指導をしていますか。	⑮ 感染症予防について正しく理解し、実践する等、健康について自己管理ができている生徒が70%以上である。	『保健だより』による感染症予防や生活リズム等の広報活動を促進し、自主的に健康づくりができるようにする。	A	B	生徒の84%、保護者の74%が肯定の回答をしている。感染症予防対策のため、登校時での検温や健康観察を継続的に実施し、健康状態に応じて、個別に適切な指導・助言を行う。	A	A	感染予防への指導を継続的に実施し、感染しない、させないという意識を常に持たせる。また、受診勧告後の未受診を防止するため、生徒だけでなく保護者への呼びかけをさらに強化する。
		⑯ 進路指導が自分の進路検討や進路決定に役立つと感じている生徒が80%以上である。	進路関係諸行事のさらなる充実と『進路だより』の発行に加え、こまめに個別アドバイスを行う。	A	A	生徒の94%が肯定の回答をしている。就職や入試の最新情報を継続的に提供し、進路選択に役立たせるとともに、生徒個々の状況に応じて、進路指導をゼミ担任・進路部で組織的に行う。	A	A	進路に関する情報提供を定期的に行い、生徒の進路意識の向上を図るとともに、各年次ごとの段階を踏まえた指導・支援を組織的・計画的に行い、生徒個々の進路実現を目指す。(生徒97%)
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	7 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑰ 進路目標を持ち、その実現に向けて努力している生徒が80%以上である。	早期に卒業後の進路を意識し、モチベーションを維持できるように指導する。	B	B	生徒の86%、保護者の77%が肯定の回答をしている。早期の段階で自己の適性や能力をもとにしたライフワークプランを確立させるとともに、年次の系統的な進路指導を充実させる。	A	A	卒業後の進路希望を早期の段階で明確化し、自己の適性と能力を伸ばさせる指導を充実させるとともに、年次に即した系統的な進路指導を行っていく。(生徒91%,保護者90%)
		⑱ ICTを活用した情報発信に満足していると評価する保護者が70%以上である。	保護者のニーズを的確に把握した上で、一斉メール・ホームページを活用した情報発信を行う。	B	A	保護者の91%が肯定の回答をしている。コロナ禍にあって、対面での活動は制限されているが、様々なツールを用いて保護者への各種情報提供の機会を確保していく。	A	A	本年度はホームページに加えて、安心安全メールからの情報発信やGoogle-Classroomを活用して、生徒・保護者との情報共有を図った。今後も保護者のニーズに応じた情報発信に努める。
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	8 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑲ 学校説明会や授業公開、中学校訪問など、外部に情報発信する機会を年間5回以上実施している。	ホームページを定期的に更新し、本校の教育活動を紹介するなど積極的な広報活動に努める。	C	C	県の警戒度に伴い、学校説明会等の公開行事は延期またはオンラインへと変更した。今後の広報活動も検討中である。当分の間、広報手段の1つであるホームページの充実にも努めていく。	B	B	ホームページや学校案内等の発信媒体の内容の充実をはじめ、学校説明会や公開行事等においても、コロナ禍でも実施可能な広報活動の方法や内容の検討を行う。
		⑳ ICTを活用した授業に、生徒の70%以上が満足している。	ICTを効果的に活用した授業内容の充実を図るための校内研修会を実施する。	B	A	生徒の89%が肯定の回答をしている。感染症予防によるオンライン授業においても生徒の学力に与える影響を最小限に押さえられるようにICTの効果的な活用を模索していく。	B	A	ICTを効果的に活用するための校内研修会を行い、各先生方の活用実践例を共有し、授業の充実と改善を図った。今後は今年度の反省をもとに更なる授業改善を図る。(生徒98%)

